

鑄造設備と環境設備の2本柱で 顧客ニーズに柔軟に対応

海外発注可
納期相談
企画力自信有
コスト相談
オンライン技術
メイトイン
ジャパン
試作可
小ロット



要望に応じて大型設備を製造

業務内容 顧客に合わせた 半オーダーメイド装置

「太洋マシナリー」は鑄造設備と環境設備という2本の事業の柱を持つ。鑄造設備は、鑄造品に付いた砂を落とす振動装置や表面処理を行うショットブラスト、型に使った砂の再利用に向けた砂再生装置と砂冷却機などで鑄造現場の効率化を支える。平成9年に進出した環境設備では、大量の産業廃棄物を選別処理できる機械が評価されている。

両分野とも標準機を用意しているが、使用環境に合わせて仕様変更を行う半オーダーメイドも対応。渡辺兼三社長は「図面だけではわからない使用環境に応じた調整もあるため、顧客と話し合いながら作り上げる」と顧客満足の秘訣を語る。

強み 鑄造砂を扱う技術を 基本に応用展開

鑄造分野では砂のリサイクル率や樹脂の剥離率向上という顧客のニーズに応じてきた。人工砂やアルカリ樹脂の登場にも、新たな再生装置を開発して対応。搬送などの振動機械ではジェネラル・キネマティクス・コーポレーション（GKC）社（米国）と35年以上にわたり提携。共振を利用した振動技術を導入し、部品を変更するなどの工夫で日本の鑄造工場に合わせた仕様に改良している。

この技術を応用し、アルミ鑄物の振動中子落とし機や建築混合廃棄物を中心とする振動選別機械などを開発。渡辺社長は「顧客満足を追求し続けることで90年間事業が続いてきた」と実感する。

人材育成 風通しの良さで 若手社員が定着

若手人材の確保が課題となっている企業は多いが、同社は高校や大学の新卒で採用した

人材の定着率が極めて高く、社員の平均年齢は30代。製造現場に若手社員が多く、短納期の依頼にも意欲的に対応している。

渡辺社長は若手社員の満足度の高さは「全員で良くなる」と考え、指導しあえる風通しの良さが理由だと考える。ユニフォームの変更も社員の意見を取り入れ実現した。機械製造は設計から製缶、組立、据付まで一貫して行っており、営業やメンテナンスを含めて担当業務が多い。メンテナンス担当者が顧客の要望を基に提案するなど、社内の風通しの良さは開発力にもつながっている。

今後の展望 設備投資や 海外メーカーとの提携を展開

若手社員の提案を受け、平成26年から毎年約1,000万円を投じて設備更新を進めている。これまで半自動溶接機やセットプレス機、CNC（コンピュータ数値制御）旋盤を導入し、平成29年はラジアルボール盤を更新した。今後は5年程度かけて、フライス盤、キーシッター、シャーリング装置などを更新していく予定だ。

第3の事業の柱を育成する計画もある。海外の設備メーカーと提携して、自社製品をライセンス提供するビジネスだ。東南アジア、欧州で実績があり、今後はインドや米国、南米などの大市場を見据える。ライセンス提供先への重要部品の輸出にもつながり、成長が見込まれる。



若手社員が定着



社員の提案を受け設備を更新

当社の歴史



昭和2年に大阪市福島区で「太洋機械商会」という商社として創業、昭和9年に「太洋鑄機」を設立、社名のとおり鑄造用機械製造で発展してきました。平成9年に環境設備での成長を目指し「太洋マシナリー」に社名を変更。平成15年に大阪市大正区に本社移転し、2本柱で成長してきました。

代表取締役社長 渡辺 兼三さん

<http://www.omco-taiyo.co.jp/>

主な事業内容

鑄造工場用設備機械、産業廃棄物選別機的设计・製造

主な取引先(納入先)

各種鑄物メーカー、鑄鉄管メーカー、ポンプメーカー、廃棄物処理プラントメーカー、環境系商社など

●住所

〒551-0023
大阪市大正区
鶴町4-1-7

●TEL 06-6556-1601
●FAX 06-6556-1222
●創業 昭和2年4月
●設立 昭和9年4月
●資本金 9,000万円
●従業員 89名